

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|--------|-------------|
| C-141 | 14-325 | 慶應義塾大学 |
| 題名(原題/訳) | | |
| <p>Efficacy of acamprosate for the treatment of alcohol dependence long after recovery from withdrawal syndrome: a randomized, double-blind, placebo-controlled study conducted in Japan (Sunrise Study).</p> <p>アルコール依存症の治療のためのアカンプロサートの禁断症候群による回復後の長期間の効果：日本における無作為二重盲検プラセボ対照試験(Sunrise Study)</p> | | |
| 執筆者 | | |
| Higuchi S; Japanese Acamprosate Study Group. | | |
| 掲載誌 | | |
| <p>Am J Med Sci. 2015 Feb;349(2):117-23. doi: 10.1097/MAJ.0000000000000361.</p> <p>J Clin Psychiatry. 2015 Feb;76(2):181-8. doi: 10.4088/JCP.13m08940.</p> | | |
| キーワード | | PMID |
| アカンプロサート、アルコール依存症、断酒 | | 25742205 |
| 要旨 | | |
| <p>目的:</p> <p>日本のアルコール依存症患者で完全な断酒を維持するためのアカンプロサートの効能を調べるために二重盲検無作為プラセボ対照試験を行う。</p> | | |
| <p>方法:</p> <p>我々は 327 例の ICD-10 定義のアルコール依存症患者を登録し、24 週の間 acamprosate(経口的に 1,998mg/d)群またはプラセボ群に無作為割付けした。主要エンドポイントは、24 週間投与後の完全な断酒であった。本研究は、2009～2011 年に 34 の医療機関で行われた。</p> | | |
| <p>結果:</p> <p>アカンプロサート群は、主要エンドポイントでプラセボ群に対して有意に優勢な有効性を示した：プラセボ群(P = .039)における 36.0%(59/164 の被験者)と比較して、アカンプロサート群で完全な断酒維持の割合は 47.2%(77/163 の被験者)であった。2群間の完全な断酒率の差は、11.3%(95%CI、0.6%-21.9%)であった。</p> | | |
| <p>結論:</p> <p>アカンプロサートは、日本のアルコール依存症患者で断酒維持する際に、プラセボより優れている。これらの所見はヨーロッパで行われた 11 件の無作為盲検化プラセボ対照臨床試験に同意するものである。本研究は臨床診療を日本で反映する形で行われており、従って、このフィールドへの利用できる証拠への意味がある追加である。</p> | | |